

FFG
×
九州の
未来

地域と
ともに、
新しい
未来へ

明日も未来も、 「あなたの いちばんに。」

FFG設立10年間の振り返り

ふくおかフィナンシャルグループは、平成29年4月2日に設立10周年を迎えました。これもひとえに、お客さま、地域の皆さまの温かいご支援・ご愛顧の賜物と、心より感謝しております。

FFGは、平成19年4月、福岡銀行と熊本ファミリー銀行の経営統合を機に設立、その半年後の10月には親和銀行が加わり、グループに3つの銀行を傘下に持つ地域金融グループとなりました。設立当初から、ブランドスローガン「あなたのいちばんに。」を掲げ、「地域金融システムの安定」、「地域経済の活性化」を志とし、広域展開型地域金融グループとして「企業価値の持続的成長」の実現を目指し、様々な取り組みを進めてきました。

当初の3年間は、事務・システムの統合、商品・サービスの統一、「シングルプラットフォーム・マルチブランド」などの経営インフラの整備と併せて、当時、熊本ファミリー銀行と親和銀行の最大の課題であった不良債権問題との訣別を図り、財務体質の強化を進めました。以降は「攻め」のステージへと転換し、成長トレンドを確実なものとして、着実に歩を進めています。

事業環境の変化を先取り、 既存ビジネスの変革と 新ビジネスへの挑戦

経営統合後にはリーマンショックによる厳しい時期がありましたが、現下では、人口減少・少子高齢化といった「社会構造の変化」や「マイナス金



ふくおかフィナンシャルグループ 取締役社長

福岡銀行頭取

柴戸 隆成

TAKASHIGE SHIBATO

利の導入」、また、ICTの進展による「産業構造の変化」など、金融機関を取り巻く環境は、今までにないスピードで変化しています。

日本より進んでいる海外での動きを見ると、ICTを活用した商品・サービスに特化して支店を持たずに各種バンキングサービスを提供する銀行、アマゾンに代表されるような金融サービス以外で築いた巨大な顧客基盤を持つ企業が、ICTを駆使して銀行のサービスを提供するなど、新たなカテゴリーに分類される企業の銀行業への参入が加速度的に進むと考えています。また、それに伴い、お客さまや地域社会が地域金融機関に求めるニーズも多様化かつ高度化し、これまで以上に事業環境の変化を先取りして、従来の延長線上にない事業やサービスを創り上げることが求められています。

こうした背景からFFGでは、どのような環境においても揺るがない経営体制を構築し、進化してい

くため、既存ビジネスの変革と新ビジネスへの挑戦の2つを重点テーマとした「構造改革」に取り組み、強く前に進めています。

まず、重点テーマの1つ目である「既存ビジネスの変革」については、従来から取り組んできた、企業意思決定者の法人・個人両面のニーズにワンストップでお応えしていく体制、また、個人のお客さまの資産形成から保障・相続といった多様なニーズにお応えしていく取り組みを更に加速させて、最適なサービスを提供していく体制を強化します。

2つ目の「新ビジネスへの挑戦」については、平成28年から展開しているiBank事業をはじめ、積極的に取り組んでいるフィンテック分野など、従来の延長線上にない新たな事業やサービスの提供に向けた取り組みを更に加速していきます。

金融面からのサポートで 元気な九州を、さらに元気に

FFGの地盤である九州は、人口や経済規模で日本の約1割を占め、タイと同規模の経済圏を形成しています。平成23年に九州新幹線が全線開通し、高速道路の整備も進むなど、交通利便性が高まったことにより、域内経済の一体化が進展しています。

個別の産業でいうと、九州は、自動車産業やIC、農業・食品産業の重要な生産拠点であり、特にICは約30%、農業は約20%の国内シェアを占めています。また、九州への外国人入国者数は年々増加していて、平成28年には370万人を超え、過去5年間で5倍に増加しており、毎年過去最高を更新しています。この傾向はしばらく続くことが想定されることから、更なるインバウンド消費による経済効果が期待されます。

九州は、日本でも元気が良い地域ですが、九州経済がより発展し、また地域社会がさらに活性化していくためには、金融面からのサポートが求められています。厳しい事業環境においても、そうしたニーズに応えるべく、グループ一体となって高品質なサービスの提供に総力を挙げてまいります。

変わることなく大切にしたい 「信用」「信頼関係」

環境変化を的確に掴み、新たな事業やサービスを提供してビジネスモデルを創り上げる一方で、変わらずに守り続けなければいけないものがあります。それは銀行の「信用」であり、お客さまとの「信頼関係」です。他社においては、データ改ざん事件などで長年の信用を一気になくし、存続すら難しくなった事例もあります。こうした事件から得られる教訓は、目先の損得のみに目を奪われることなく、お客さまとの「信頼」を苦しい時こそ守り続ける大切さだと思います。FFGの役職員全員がこの想いを胸に刻んで、日々の業務に邁進いたします。

これからも選ばれ続ける 銀行を目指して

これまでの10年間のご愛顧への感謝の気持ちと、これからの新しい未来に向けて皆さまとともに歩んでいくという想いを込めて、「地域とともに、新しい未来へ」をスローガンに、平成29年4月から設立10周年記念行事を実施しています。

4月には熊本地震から1年ということで、震災復興祈念イベントを開催し、来場者数は3日間で延べ5万人を超える大盛況となりました。お客さまに対しては、10周年記念キャンペーンとして、様々な商品・サービスを提供させていただくなど、年間を通じて様々な記念事業を展開しています。

また、FFGでは10年後の目指す姿として、全てのステークホルダーからの支持を獲得するという想いを込めた長期ビジョン「ザ・ベストリージョナルバンク」を掲げています。お客さま、そして地域の皆さまから「FFG“が”いい」として選ばれ続ける銀行を目指してまいります。

皆さまには、今後ともなお一層のご支援、ご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

お客さまの未来と 地域の発展に 貢献できる存在に

“金融の地産地消”の推進を加速

平成29年4月でFFGが設立して10年の節目を迎えることができました。これもひとえに、地域の皆さまからの温かいご支援とご愛顧の賜物であり、心より感謝申し上げます。

経営統合により当行は、不良債権問題から訣別し、またシステム統合により構築したインフラを徹底活用することで、飛躍的な成長トレンドを確立することができました。平成25年4月には行名を「熊本ファミリー銀行」から「熊本銀行」へ変更し、地域で預かった資金を地域に還流する“金融の地産地消”の推進を加速するとともに、主に熊本県内を中心に高度かつ多様な金融サービスを提供しています。

熊本地震への対応を 今後に残す取り組み

平成28年4月に発生した熊本地震は、熊本・大分を中心に甚大な被害をもたらしましたが、震災からの復旧・復興にあたり経営統合の効果が大きく発揮されました。FFGでは商品・サービスやシステムをグループ3行で共通化し、3行があたかも一つの銀行であるかのようないわゆる「シングルフラットフォーム・マルチブランド」の経営スタイルを確立しています。それにより震災直後よりグループ行から派遣された行員が即戦力として店頭業務の支援を行うとともに、当行行員は地元のお客さまのところに外向いて「生の声」を聞き、変化するニーズを受け止めることに専念することができました。

この震災対応の経験を風化させることなく後世に継承するために、記録誌「未来へ向かって笑顔あふれる熊本へ～熊本地震対応の記録～」



熊本銀行頭取

竹下 英

EI TAKESHITA

を刊行し、一般のお客さまをはじめ、自治体や報道機関、金融庁や日銀、熊本県内の図書館に無償で配布するとともに、記録誌のCDを県内の小中学校に配置することにしました。

未来と地域の発展に 貢献できる存在に

地域金融機関の最大の使命は地域経済発展への貢献であり、今後は従来の銀行業務に加えて、グループの「情報・人財・ネットワーク」を活用し、お客さまの様々なニーズに対し最適なサービス・商品を提供するといった“コンサルティング業務”を強化することで、金融機関としての価値を高めます。その一環として、福岡銀行が先行してサービスをはじめた、公式スマートフォンアプリ「Wallet⁺」と、JCBブランドのデビットカード「Debit⁺」の取り扱いを平成29年10月から始めました。

今後も、「いちばん身近な、いちばん頼れる、いちばん先に行く」銀行であり続けるよう、さまざまな金融サービスを通じて、お客さまの豊かな未来創りと地域の発展に貢献できる存在でありたいと思います。

これからの 10年に向けて

FFG設立10年間の振り返り

親和銀行がFFG入りしてからの10年の間に、業績を順調に伸ばし、強固な経営基盤を構築できたのは、ひとえに地域の皆さまからの温かいご支援とご愛顧の賜物であると、役職員一同心から感謝申し上げます。

この10年間は事務システム統合などの経営インフラの整備から始まり、「前向きな営業体制」を構築するなど大きく生まれ変わり、長崎県で大きな存在感を発揮できる銀行になったと自負しています。

これまでの銀行の枠組みを 超えて地域に貢献する

地域金融機関を取り巻く環境は、人口減少問題、長引く低金利、ICT革命による異業種の参入により、加速度的に厳しくなっています。特に当行の地元である長崎県において人口減少は大きな問題となる可能性が高く、長崎県経済の先行きが心配されているのはもちろんのこと、銀行にとっても預金・貸出金の減少が見込まれ、銀行経営の先細りが懸念されています。

このような中、当行が今後取り組むべきことは、まずは「既存ビジネスの変革」であると考えています。お客さまの声や地域の声に耳を傾けてニーズを掘り起こし、最適な提案を行う体制を強化していきます。

また、長崎県の地域振興への取り組みにも積極的に参画したいと考えています。専門人財を育成・配置することで、主要産業である観光や農業、漁業の発展に貢献できる活動を行い、最近ではこれまでの活動の成果が徐々にではありますが出始めています。

これまでの銀行の枠組みを超えて地域に貢



親和銀行頭取
吉澤 俊介

SYUNSUKE YOSHIZAWA

献することが、当行を支え続けていただいた地元のお客さまへの恩返しにもなりますし、これまで以上に「銀行の信用」や「お客さまとの信頼関係」を築いていけることに繋がると信じています。

経営統合を 実現させることが使命

最後に、FFGと十八銀行との経営統合についてですが、非常に厳しい経営環境の中、地方銀行本来の役割を永続的に果たしていくためには「経営統合による効率化」は有効な手立てだと考えています。特に長崎県を地盤とする当行と十八銀行との合併は最大のシナジー効果を発揮できますし、長崎県経済を金融面で強力にサポートできる最高の組み合わせです。私どもはこの経営統合を実現させることが使命であると考えています。

これからの10年に向けては、厳しい経営環境を乗り越えるべく「既存ビジネスの変革」を早期に実現させ、FFGのブランドスローガンである「あなたのいちばんに。」を念頭に、地元のお客さまに大きな活力をもたらし、しっかり支え続けていける銀行になりたいと考えておりますので、これからも益々のご支援をよろしくお願い致します。

これまでの変化に見る、これからの希望

九州3県に人が集まる



増えている!?

住んでいる人

人口推移(3県総計)※1



約1%減

2007年

8,348,211人

2016年

8,245,400人

減少していますが、注目すべきはこの数字の内容です!

福岡県・熊本県・長崎県の3県における10年間の人口推移です。

高齢化と少子化の影響によって約1%減少していますが、よくデータを見てみると、その内容には明るい希望がありました。

※1:公益財団法人 九州経済調査協会「総人口・人口動態」より

CLOSEUP
1

福岡市の人口増加率にご注目! /

福岡市

人口
増加率

1位!

政令市中※2

若者の
割合も

1位!

政令市中※2



福岡市は、平成22年から27年までの
5年間の人口増加率が政令市中第1位!

福岡市の人口増加率は、政令市の平均からすると約5倍もの伸び率を記録しています。注目すべきは、増加の内訳の若者(10代・20代)の割合です。若者が増えている理由は、福岡市がすすめる企業誘致によって雇用の間口が広がっていることや、大学・専門学校の充実、物価が低く住みやすいなどが考えられます。

※2:福岡市「Fukuoka Facts」人口増加数・増加率、若者(10代・20代)の割合より

CLOSEUP
2

女性に選ばれています /

女性を癒すスポットが軒並み!女性が輝く九州へ。

福岡・熊本・長崎の男女人口比は、全国平均と比較して女性が多いのが特徴です。その裏付けと言えるのが、福岡市は女性1万人あたりのヨガ教室数、婦人服店数、エステティックサロン数すべてが政令市中第1位※3ということ。また働くママのための病児・病後児保育事業施設も充実しており、その利用者数も福岡市は第1位!※4女性に選ばれているのは、女性が離れたい環境が整っているからかもしれません。



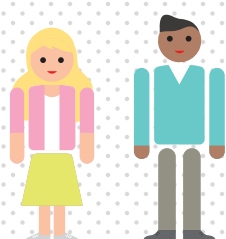
※3:福岡市「Fukuoka Facts」女性人口に対するヨガ教室・レストラン・婦人服店の数／女性人口に対するサロンの数より

※4:福岡市「Fukuoka Facts」病児・病後児保育利用者数より

理由

福岡県、熊本県、長崎県における過去(10年)のデータ動向を眺めてみると、そこには九州3県に人が集まる魅力が鮮明に見えてきました。九州を好きになる人がもっと増えれば、将来がもっと弾むはず。FFGはこれからも明るい兆しに満ちた九州を応援していきます。

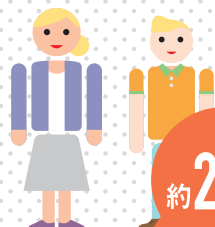
2017年12月10日現在のデータ・資料をもとに作成



集まっている!!!

外国人観光客

年間入国外国人数 ※5



約2.5倍

2007年

849,806人 → 2016年 2,115,662人

あふれる外国人観光客。まちは既にグローバル・スタンダード!

海外から九州3県を訪れた観光客は約10年間で約2.5倍にも増加。

観光業は既に九州の基幹産業として定着しつつあり、
今後はいかに安定した産業とするのが課題になっています。

※5:公益財団法人 九州経済調査協会「入国外国人数」より福岡県・熊本県・長崎県を総計して表記

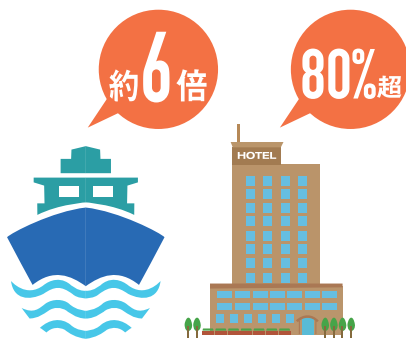
CLOSEUP

1

海を渡って続々と集まっています /

博多港寄港のクルーズ船は約6倍! ※6 ホテルも嬉しい悲鳴!

博多港に大きなクルーズ船を見かけない日はありません。それもそのはず2016年の博多港クルーズ船寄港回数は328回と過去最高の記録で、5年前の寄港数と比べると約6倍にもなっています。福岡市の入込観光客数も、5年間で300万人以上増加。ホテルの客室稼働率もここ数年80%を超えるほどで…外国人観光は九州の宿泊業はもちろん、輸送業、飲食業、土産品業まで…裾野広く経済を潤してくれています。



※6:福岡市「Fukuoka Facts」クルーズ船寄港回数(H28年)より

CLOSEUP

2

人気があるのは、総合満足度が高いから /

九州なら 観光+温泉の旅が叶う 次なる人気は「長崎県」か!!

九州3県を訪れた外国人の多くはグルメもアクティビティも満足度が高いのが特長です。福岡市で在留外国人が増加していることも、九州の魅力が海外へ広がる要因になっているかもしれません。長崎県では、外国人が好む簡易宿所の普及に努め、2016年には1,300以上もの宿所を設置、長期滞在で長崎の魅力を堪能してもらおうという取り組みが進んでいます。

検索されといる! 九州の ※7
観光地ランキング

- 1位 長崎県 ハウステンボス
- 2位 福岡県 太宰府天満宮
- 3位 熊本県 黒川温泉

福岡市から
車で1~2時間内に
「にっぽんの温泉100選」!

長崎県の雲仙温泉、熊本県の黒川温泉、阿蘇温泉郷、杖立温泉などは車で福岡から約1~2時間!この近さが九州旅行の魅力のひとつのようです!

※7:株式会社ナビタイムジャパン(経路検索条件データ)2015年すべての期間(休日)交通手段自動車調べより

九州3県に人が集まる理由

な 人 乙 っ た っ 乙
魚 が 美 味 し い !



1

A stylized illustration of a fisherman wearing a black cap, a light blue shirt, and dark overalls, holding a large blue fish with both hands. The fish has a white eye and a small smile.

とにかく物価が優しい！

※10:福岡市「Fukuoka Facts」消費者物価地域差指数と小売物価より

1

家賃東京の
半分以下



サポートが色々あって 開業に挑戦しやすい！



3年連続開業率1位！
若い起業家も多い！

福岡市の開業率は、全国21大都市の中で最も高いランクを維持しています。
これは市の充実した支援制度をはじめ、2014年に国家戦略特区「福岡市グローバル創業・雇用創出特区」の指定を受け法制・税制など様々な規制緩和策が整っていることが背景にあります。
このような企業集積に向けた攻めの姿勢が、若者（25～34歳）の起業精神にも影響し、
若者の開業率の増加につながっているようです。

開業率の高い都市ランキング(21大都市中) ※11

起業家数のうち若者
(25～34歳)の割合

12.3%

21
大都市中
第1位

1位

福岡市 7.04%

2位

さいたま市 6.92%

3位

川崎市 6.71%

※11：福岡市「Fukuoka Facts」開業率／起業者に占める若者の割合より



CLOSEUP

1

国際空港から都心への距離は アジア中で堂々トップ！ ※12

福岡国際空港から都心へのアクセス時間は、なんと世界で4位！アジア13都市中では第1位の成績です。空港に着いてからの船や新幹線への乗り換えも良好で、行動派のビジネスマンにはとても便利な環境にあります。国際会議の開催件数も、福岡は東京に次いで第2位。これもこのアクセスの良さがあるからでしょう。

空港まで
近い



※12：福岡市「Fukuoka Facts」国際空港から都心までのアクセス時間（GPCI2016）より

A | T | T | E | N | T | I | O | N

九州の起業精神をもっと底上げ！
FFGは傘下の
FFGベンチャービジネスパートナーズとともに、
総合的にベンチャー企業を支援します。

起業しようとするベンチャー企業には、あらゆるステージであらゆる角度から支援する必要があります。FFGは「九州・大学発ベンチャー振興会議」に参画し、積極的に協力すると同時に、株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズを設立し、ベンチャー企業を全面的にバックアップすることで、地域経済の活性化に繋げています。



FFG×九州の未来

九州のキーマン

とともに

九州未来カレンダー

現在から未来へ。世界や日本の社会・経済はどうなっていくのか？
これから待ち構える出来事がいかに私達に影響してくるのか？
わくわく？ドキドキ？と一緒に九州の未来を見つめていきましょう。

2019

2018

- 韓国 平昌で冬季オリンピック開催※1
- NASA火星探知機インサイト打ち上げ※2
- 夏の甲子園100回記念大会※3
- 明治維新150年 大河ドラマ「西郷どん」※4

火星探知機インサイトの目標は、火星での1年間（地球での687日間）をかけ地質学調査を行うこと。惑星の成り立ちが解明され、火星がもっと身近な存在になることでしょ。100回目を迎える甲子園は「より多くの球児に甲子園の土を踏んでほしい」と史上最多56校が出場します。

- 平成が終わり新年号へ
- 福岡空港 民営化
- G20サミット 日本初開催※5
- 熊本城天守閣 復旧※6
- 大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺～」※7
- 日本でラグビーW杯2019開催※8

日本で初めて20カ国・地域（G20）首脳会議が開催されます。この開催地の誘致に福岡市も挙手。この年、ラグビーW杯も福岡・熊本・大分での開催が決定しており、もしG20の誘致も決定すれば九州に世界の注目が集まる1年となりそうです。

九州の未来 長崎 編

福岡に続き、世界遺産登録で
世界中に長崎の魅力を発信！

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は、250年にも及ぶ禁教期に密かに育まれた独自の信仰の伝統を物語る資産です。長崎県の5市2町（長崎市、佐世保市、平戸市、五島市、南島原市、小値賀町、新上五島町）と熊本県の天草市にある12の資産で構成されています。福岡に続き、2018年の世界遺産登録を目指しています。

詳しくは

おらしょこころ旅

【長崎と天草地方のキリスト教関連歴史文化遺産群ウェブサイト】

<http://oratio.jp/>



（上）長崎県北松浦郡小値賀町の旧野首教会
（下）長崎県五島市の江上天主堂

※1：公益財団法人日本オリンピック委員会HP ※2：NASA's Next Mission to Mars Will Probe the Red Planet's Deep Interior in 2018 ※3：日本経済新聞HPより ※4：日本放送協会(NHK)HPより ※5：外務省HPより ※6：熊本県第7次総合計画実施計画【震災復興計画分】より ※7：日本放送協会(NHK)HPより ※8：ラグビーワールドカップ2019HPより

九州の未来 熊本編

マラソンの父「金栗四三」が再び熊本を盛り上げる！

熊本県玉名郡春富村(現・和水町)出身の金栗四三は、日本人初のマラソン選手として1912年のストックホルムオリンピック大会以降、数々の伝説を残し、現役引退後は1964年の東京オリンピックや箱根駅伝の開催に尽力しました。2度目の東京オリンピックを控える2019年には、NHK大河ドラマの主人公に決定。熊本の盛り上がりを牽引してくれる存在になってくれそうです。



日本人で初めて3度のオリンピック出場を果たした金栗四三
(上)ストックホルム大会帰国後の記念写真
(下)同大会開会式で「NIPPON」プラカードを持つ四三

2020

- 東京オリンピック開催 ※9
- 小学校の英語が正式教科 ※10
- アラブ首長国連邦のドバイで万国博覧会開催 ※11

小学校では5年生からの正式な教科として英語の授業がスタート。7月24日から待望の東京オリンピックが開幕し、世界中の人が日本へ集まり、グローバル化にいっそう拍車がかかる年となりそうです。また世界では、中東・アフリカで初となるドバイにおいて万国博覧会が開催されます。

2021

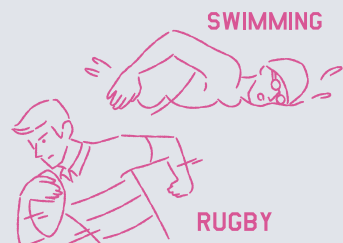
- 世界水泳選手権 福岡で開催 ※12
- 世界最大巨大マゼラン望遠鏡試験観測開始 ※13
- 長崎駅前MICE施設 オープン ※14
- 熊本駅ビル完成 ※15

韓国など国際天文研究チームが宇宙最初の星を探索するために建設している世界最大の望遠鏡が完成。反射鏡の有効直径が25.4mに及び、鮮明な映像から初期宇宙の生成過程や暗黒エネルギーの正体解明が期待されています。

HOT FUTURE

東京オリンピックの前後年は、九州が世界スポーツの舞台になる。

2020年の東京オリンピックの前年には、ラグビーW杯2019日本大会が開催決定。9月から開幕し、福岡で3試合、熊本で2試合、大分で5試合が決定しています。またFINA(国際水泳連盟)は、2021年の世界水泳選手権開催を福岡市に決定しました。これは2001年の開催に次いで20年ぶり2回目。オリンピック・パラリンピックが終わってもなお、九州におけるビッグな国際大会が世界中を沸かせます。



HOT FUTURE

九州の旅が グッと好循環へ！ 2022年春に 長崎新幹線開通。

目下、長崎の新幹線整備が進行中。2022年春、長崎新幹線（九州新幹線 西九州ルート）において、長崎駅から武雄温泉駅まで新幹線を使い、武雄温泉駅から博多駅までは在来線特急に乗り換えるリレー方式で開業します。九州周遊観光がさらに熱を帯びそうです。



2022

- インドの人口 中国を抜き世界トップへ ※16
- 九州新幹線 西九州ルート開通 ※17

世界で人口が最も多い中国を、この年インドが追い抜くと見込まれています。年率7%の経済成長を保ち株価も右肩上がりのインドがさらに注目される年となりそうです。また春には、長崎新幹線（九州新幹線 西九州ルート）が開通します。

九州の未来 福岡編

さらに雇用が高まり、 活気ある拠点都市へ！ 天神ビッグバン2024

福岡市は、規制緩和により民間投資を呼び込み、更新期を迎える30棟のビルの建替えを促進するとともに、ひとを中心とした歩いて出かけたくなるまちに変えていくプロジェクト「天神ビッグバン」に取り組んでいます。2024年には延床面積は1.7倍、雇用は2.4倍に増加し、約2,900億円の建設投資効果と毎年約8,500億円の経済波及効果が見込まれます。

天神ビッグバンによって、こう変わります！

延床面積 2015年 444,000㎡ ⇨ 2024年末 **757,000㎡**

雇用者数 2015年 39,900人 ⇨ 2024年末 **97,100人**

建替完了後の経済活動波及効果 **毎年約8,500億円**

約
1.7倍

約
2.4倍

2024

- 火星へ 有人飛行計画 ※20
- 天神ビッグバン 完了 ※21
- パリ 夏季オリンピック開催 ※22

アメリカのスペースX社は、火星への有人探査機の打ち上げを発表しました。この打ち上げは火星へ人類が移住を目指す足掛かりにするとのこと。これまで不可能を可能にしてきた経緯と実績あるスペースX社にますます注目が集まりそうです。

2023

- 日本版GPS 7基体制へ ※18
- サッカー女子W杯開催 ※19

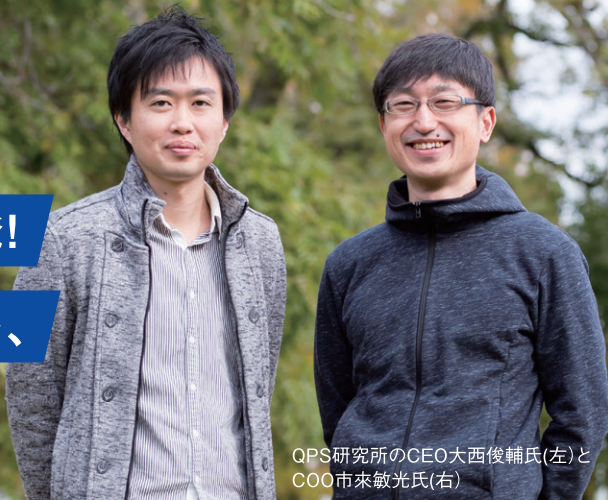
政府による新たな宇宙基本計画では、この年地上の位置情報を高い精度で測る「準天頂衛星」について7基で運用する体制を確立します。この体制が整えばアメリカのGPSに頼ることなく、完全に自国のGPSが運用可能に。新たなサービスや市場も活性することでしょう。

INTERNET

2024天神未来創造

天神ビッグバン

史上初の小型衛星を開発!

<QPS研究所>が日本を、
そして世界を変革するQPS研究所のCEO大西俊輔氏(左)と
COO市来敏光氏(右)

「九州を宇宙産業の中心に!」
ベンチャー企業<QPS研究所>を起点に、
そんな挑戦が進行しています。
CEOの大西俊輔さんと、
その仲間が目指す夢とは?

福岡から宇宙に挑む、
精鋭の技術者集団

2017年11月、宇宙産業関係者を驚愕させるニュースが、福岡から世界に発信されました。過去にどの国もできなかった100kg以下の小型レーダー衛星を、社員わずか8名の<QPS研究所>が開発に目処をつけたとして、FFGベンチャービジネスパートナーズ、官民ファンドの産業革新機構を含めた9社より23.5億円の資金調達を発表したのです。実際の打ち上げは2019年を待たねばなりません。宇宙産業の可能性を広げ、社会・経済などに劇的変化をもたらすインフラとして、海外からも熱い視線を浴びています。その衛星が一体何を変えるのか、CEOの大西俊輔さんに伺いました。

「簡単に言うと、現在の衛星には、夜間、悪天候時に地上を撮影できないことと、従来のレーダー衛星は一機数百億円と高価で複数機打ち上げられないという2つの欠点があります。私たちの衛星はそこを解消し、しかも開発コストは約100分の1。将来は36機を打ち上げて地球のほぼ全域をカバーし、撮影画像をもとに“世界で起きていること”をリアルタイムで把握できるシステムを構築します。その結果、例えば気象・市場・経済などのデータとAIで連結し、国



や地域ごとの経済予測を行えますし、自然災害時の迅速な状況把握などにも有効。一般ユーザーレベルにも広まれば、ポテンシャルは無限大でしょう」

昨年渡米したシリコンバレーでは、グーグル社の衛星部門のトップを始め関係者から質問攻めに。誰もが同社の衛星に、新時代への光を見出したのです。

夢は、世界に誇れる
「宇宙産業の集積地」

しかし小型衛星開発は、あくまで夢の実現に向けたプロセスの1つ。真に同社が目指すのは、宇宙産業を九州の地に根付かせることです。「それこそが当社の設立目的であり、私がここへ参加した理由でした」大西さんはまだ31歳という若さですが、すでに10以上の宇宙プロジェクトに関わっている工学博士。国内屈指の経験を持つ同氏には、大学や企業からのプロジェクト参加の依頼が絶えないとか。「実はすでに何年も前から九州のメーカー数10社とクラスター(=ネットワーク)を形成しており、今回の衛星開発もこの地盤があったおかげ。九州には高い技術を持ちながら“いや、うちらなんて”と謙遜される町工場も多いのですが、今後はそういう方々とも合流し、さらに協力体制を深めていけたら」そう語る大西さんの未来図は、まさしくロマンに他なりません。「そしていつか世界中のエンジニアから、“宇宙研究をやるなら九州だよな”と言われたいですね」



QPS 研究所
Institute for Q-Shu Pioneers of Space, Inc

九州大学の人工衛星技術研究を承継し、同大学名誉教授ら3名によって2005年に設立。その後、大西氏(CEO)、市来氏(COO)ら加わり現在8名に。既述の人工衛星(アンテナ特許出願済)のほか5つの宇宙産業製品を開発。[取引銀行:福岡銀行千早支店]

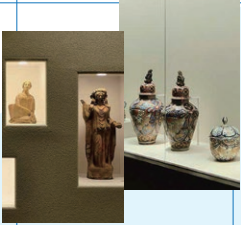
<https://i-qps.net/>

FFG 10th 年表

HISTORY 2007-2017

私たちふくおかフィナンシャルグループの10年間をご紹介します。

年表内アイコン ●FFG ●福岡銀行 ●熊本ファミリー銀行・熊本銀行 ●新和銀行

	2007	2008	2009	2010	2011	2012
FFGの取り組み	● FFGディスクロージャー誌「あなたのいちばんに。編」創刊 ● 親和銀行を加えて3行体制へ ● 株式会社ふくおかフィナンシャルグループ設立	● 株式会社FFGビジネスコンサルティング設立 ● 第1回株主総会 ● FFG本社および福岡銀行本部機能の移転 ● 「FFG調査月報」創刊	● 親和銀行創業130周年 ● 第二回個人投資家向け会社説明会の開催	● (福岡銀行と親和銀行の両佐世保支店が入居) FFG佐世保ビル完成 ● 親和銀行電話受付センターでの対応業務開始	● シンガポール駐在員事務所の新設 ● ニューヨーク駐在員事務所の新設 ● カシコン銀行(タイ)と業務提携 ● 熊本ファミリー・親和両行の株主割当増資の全額引受決定	● 初のFFGリテール債発行 ● ふくおか証券株式会社誕生 ● バンコク駐在員事務所の新設
地域との取り組み		● ボランティアの実施 飯塚商店街火災復旧	● 児童養護施設への図書寄贈 		 ● 東日本大震災復興支援ボランティア派遣の開始	● 第二回熊本城マラソンへの参加 ・大会オフィシャルスポンサーへ決定 ・長崎がんばらば国体
FFG 総資金 (預金+NCD ・3行単体合算)	103,039 億円 2007年3月末	101,455 億円 2008年3月末	102,510 億円 2009年3月末	105,329 億円 2010年3月末	 108,094 億円 2011年3月末	● 親和アートギャラリー開館 111,105 億円 2012年3月末

FFG設立10周年記念事業

実施済・実施中

- | | | | |
|------|-----------------------------------|------|---------------------------------|
| 4月 | DIAGONAL RUN TOKYO開設 | 8月～ | ブランドキャラクター「ユーモ」LINEスタンプ配信開始 |
| 4月 | 熊本震災復興祈念イベント「未来に向かって 笑顔あふれる熊本へ」開催 | 10月 | 「アクティブシニア大感謝祭」開催 |
| 4月～ | 親和アートギャラリー特別企画展開始 | 10月 | 地域振興イベント「地方創生ジ祭り」開催 |
| 6～8月 | ～FFG10周年ありがとう～「夏のキャンペーン」実施 | 10月 | 福岡銀行蔵書展示施設「歴史の広場」開設 |
| 8～9月 | 文化芸術活動開催(音楽の絵本、3県交流コンサート、FFG文化祭) | 10月～ | 『Instagramフォトコンテスト「#しんわながさき」』開催 |

地域の皆さまと
ともに歩んだ10年間…
これからも
「あなたのいちばんに。」



2013	2014	2015	2016	2017	総資金 (億円)
● 地銀協会長に谷頭取（現会長）就任 ● ブランドキャラクター「ユエモ」の仲間入り ● FFG北九州本社ビルのオープン	● 地域再生・活性化ネットワーク（全国地銀9行）の構築	● 台北駐在員事務所の新設 ● 第2回「X-Tech Innovation」の開催 ● 地方創生推進チームの設置	● 株式会社FFGほけんサービス設立 ● ホーチミン駐在員事務所の新設 ● FFGホームページリニューアル ● 熊本地震総合対策本部立ち上げ ● 株式会社iBankマーケティング設立 ● 株式会社ふくおかテクノロジーパートナーズ設立 ● 株主優待制度の導入 ● 十八銀行との経営統合に関する基本合意	● 十八銀行との経営統合スケジュール延長の発表 ● ほけんと住まいの相談室の開設 ● DIAGONAL RUN TOKYOの開設 ● FFG設立10周年 ● 福岡銀行創業140周年 ● のれんの一時償却実施	140,000
● 「振り込め詐欺から身を守るセミナー」開催開始 	● しんわまちぶらぐギャラリー設置	● 第2回「3県交流コンサート」の開催 ● 第1回「親和銀行5時間リレーマラソン」の開催	 ● 熊本地震災害ボランティア派遣の開始	● 地方創生祭りの開催 ● FFG文化祭の開催 ● 九州北部豪雨ボランティアの派遣開始 ● 「未来に向かって笑顔あふれる熊本へ」開催復興祈念	130,000
117,727 億円 2013年3月末	122,786 億円 2014年3月末	127,252 億円 2015年3月末	130,291 億円 2016年3月末	136,317 億円 2017年3月末	120,000
					110,000
					100,000

10月～ 子ども向けスポーツイベント実施
(ラグビー、野球、テニス、サッカー、剣道)

11月 離島振興イベント「NAGASAKI離島フェア」開催

12月 FFG調査月報別冊10周年記念号(本誌)の発刊

12月～ アニメ「ONE PIECE(ワンピース)」との
コラボキャンペーン実施

12月～ FFGの歩みをまとめた紹介映像のHP公開開始

今後実施予定・企画検討中

2018年/2月～

SNSによる情報発信開始

2018年/3月

大学生ビジネスプランコンテストの開催



“FFG is NEW”これからもFFGは新しいことにチャレンジします。

FFG調査月報別冊
10周年記念号
FFG×九州の未来
地域とともに、新しい未来へ

2017年12月27日／
株式会社FFGビジネスコンサルティング
福岡市中央区天神2丁目13番1号
TEL 092 (723) 2244 <http://www.fukuoka-fg.com/>